平成28年度 第１回 横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会 会議録

１ 日　時　平成28年８月８日（月） 15時00分～16時30分

２ 場　所　横浜みなとみらいホール　レセプションルーム

３ 出席者　丸山 宏 委員長、石田 一志 委員、田中 操 委員、中村 晃也 委員、
宮本 とも子 委員

４ 欠席者　なし

５ 傍聴者　なし

６ 議事内容

議題	議題１　開会 議題２　指定管理者平成27年度評価について (1)　事業報告及び自己評価・行政評価の説明 (2)　指定管理者へのヒアリング
委員意見等	**議題１　開会** (1)　定足数の確認 委員数５名のうち５名の出席により定数を充足し、会議の成立を確認した。 (2)　本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱 第９条に基づき、公開とした。 **議題２　指定管理者平成27年度評価について** (1)　事業報告及び自己評価・行政評価の説明 指定管理者による事業報告及び自己評価の説明、横浜市より行政評価の説明を行った。 (2)　指定管理者へのヒアリング （以下「・」＝委員、「→」＝指定管理者、「→（市）」＝横浜市） 〈質疑〉 **「１　経営」について** ・外部資金獲得のため、どのような取組をしているか。 →企業協賛金は、信頼関係を保ち、事業特徴や相手方のプラスになるかどうか、個別に話し合いながら進めている。助成金は文化庁から得ている。 ・例えば育成事業等に関して、長期にわたって企業協賛金を獲得できるような営業の仕方を考えているか。 →継続事業への御支援について提案をしている。 ・各種音楽組織・団体に対して場所を提供すれば、運営費の提供や集客につながる。これまで以上に連携の枠を広げ、大きな組織を巻き込めるとよいのではないか。特にジャズ関係では、吹奏楽と結びつきが深く、たくさんの聴衆・ファンがいる大きい組織を巻き込むということができたらおもしろいのではないか。 →様々な協会との事業展開は積極的にやっていきたいと思っている。

	・マンションにあるホールをみなとみらいホールのプレイベントなどで活用できるのではないか。企業の他、みなとみらいでなければできない連携もあるのでは。 ・評価の基準で、Ｂが適正となっているが、ホールがＢ級ホールという印象になるのではないか。 →（市）文化施設で共通の評価基準としている。Aは基準目標水準をはるかに上回っているもの、Ｂは適正で目標水準を達成できている。Ｃは、基準に満たない、一部未達成としている。Ｂは、施設に対するプラスの評価と考えている。 ・目標水準を「はるかに」上回るという点は、どのように考えているか。 →（市）何%以上といった具体的な基準は設けていない。評価の考え方については、総合的に考えていきたい。 「２　事業」について ・オペラ事業を整理したのか。ダンスを中核の事業として今後捉えていくのか。 →オペラを気軽に楽しんでもらえるホールとして引き続き、声楽ジャンルを取り扱っていく。27 年度は、市のダンス事業と連携したため、大型のオペラ公演は実施せず、小ホールオペラと夏のオペラワークショップを実施した。28 年度は「音祭り」のため、小ホールオペラを１公演増やしている。加えて、市の文化政策事業にあわせ、今後もダンスと現代美術とのコラボレーションを事業として考えていく。 ・ホール内の企画助言者の人数を１名に絞ったのか。 →外部からの意見、助言をいただく目的で、新たにアドバイザー１名を迎えた。財団内では専門職制度も設けた。 ・現代作曲家シリーズは小ホール公演だがオルガンの現代曲は想定していないのか →企画によって大ホールも考えられる。オルガン事業での新作を委嘱・演奏は、実施している。 ・現代作曲家シリーズはもう少し認知されるべき。国際的な発信もできる。 ・大学との提携事業が少なかったのではないか。 →公演に参加いただくこともあり、関係性が途絶えてしまったわけではない。 ・大学の壁を越えて一緒にできることがあってもいいかもしれない。 ・全体的な方向はすばらしいという印象がある。一方、国際的な認知度を保つホールとして発信していきたいとのことだが、国際的な発信事業は検討しているのか。 →現状、発信事業は不十分だ。自主事業をスリム化し、質が高く発信できるような事業を創作できる体制を早急につくる必要がある。昨年度も見直しをしているが、さらにスリム化が必要と考えている。 「３　施設の運営」から「７留意事項」について ・自主運営ができるホールは、美術館のように学芸員が専門を持って研究を続け、他館とも交流を持ち、意味のある発信をすることで、ホール自体が音楽の展覧会場のようなものになっていく必要がある。 ・国際的な協力関係を構築し、現代音楽のアンサンブルを共同出費して作品を委嘱し、世界で展開する方法もある。例えば、遠方のホールと協力し予算を立て、オルガンやオペラ、合唱も入れた大規模な作品を作り、作品自体を日本中に展開する可能性もあるのではないか。 ・文化庁の助成金で新たな企画事業を連携事業で申請していくとよい。他ホールの関係者と話をして、横浜が企画提案をするような展望もあるのではないか。

	「基本方針」について ・オリンピックでスポーツの国際化が目立つが、芸術でも、様々な国の若い人たちが一緒に何かやっていく国際交流の拠点の一つのようなものが見えたらよいのではないか。例えばアメリカの公立高校でもレベルの高い催物を実現しているところがあり、そのような若い人たちがホールに集い、横浜市の若い人たちと交流してくれたらよい。 ・音楽と身体表現とプロジェクションマッピングのようなコンピューターによるコラボレーションに着目し、目玉を作るのもよいのでは。特に身体表現は大きな力を持ち始めている。ホールのステージは非常に広く、オペラより身体表現のほうが適している面があると思う。 ・コンピューターアート分野の人達を入れて、ホールで行える実験的な取組を考えてもらうなど、新たな試みを検討していただきたい。 →これまでもホールは総花的であるという御指摘をいただき、内部で対応を検討してきた。真新しいものがないとしても、年ごとに力を入れている内容を明確に打ち出す必要があると考えている。一方で、多くのニーズに対応する結果として、総花的となる反面、健全な経営が行えているという点や、370 万人の都市でこの規模のホールは１つしかなく、総花的な対応にならざるを得ない部分もある。ただし、発信性は以前からの課題であり、今後検討していきたい。
審議結果	・今回のヒアリング及び 27 年度内の事業視察を元に、次回委員会では、外部評価について審議する。